

**研究分担課題**

東京近郊地域 HIV 感染症患者の地域・年齢分布と受診行動の現状調査

研究分担者 塚田弘樹 東京慈恵会医科大学附属柏病院 感染制御部 教授

**研究要旨：**千葉県 HIV 拠点病院会議メンバーからの聞き取り、千葉県の病院感染対策加算を算定する病院へのアンケート調査の分析をもとに、千葉県東葛地域における地域連携の可能性について検討した。東京依存型の診療体制になっており、地域連携にむけて課題が明らかにされつつある。解決に向けて次年度からの目標設定が可能になった。

**A. 研究目的**

千葉県東葛北部地域は、千葉県内でも HIV 感染症患者の多い柏市・松戸市がある。千葉県 HIV 拠点病院会議(事務局 千葉大学医学部附属病院)の活動基盤を利用し、東京近郊である千葉県東葛地域においても拠点病院集中型の HIV 診療から地域連携を重視した HIV 診療体制の構築を目的とする。悪性腫瘍、心血管疾患、慢性腎臓病、骨粗鬆症、HAND(HIV 関連神経認知障害)などの合併症に対する診療体制、患者高齢化の先の介護や看取りについて、HIV 感染者に対する偏見や医療機関からの受け入れ拒否、の実態を調査するなど、この地域での HIV 診療体制を把握する。

**B. 研究方法**

拠点病院会議メンバーからの基盤情報を基に、東葛地域の診療担当医師と協議し、上記 3 点の実情を情報交換し問題点を抽出する。千葉県の病院感染対策加算 1 を算定する、37 病院、病院感染対策加算 2 を算定する 55 病院からのアンケート結果から分析する。

(倫理面への配慮)

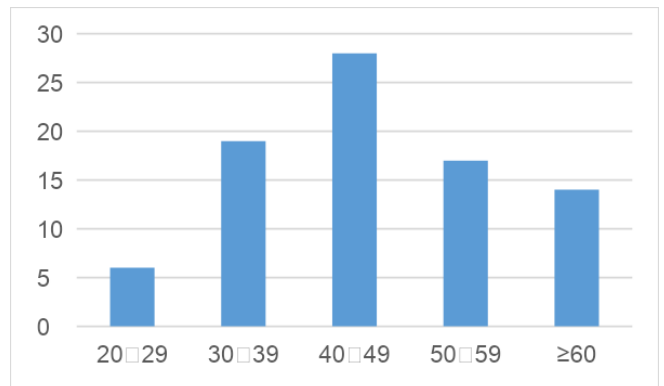
拠点病院医療従事者へのアンケートを基にした研究なので、倫理面の問題はないと考える。

**C. 研究結果**

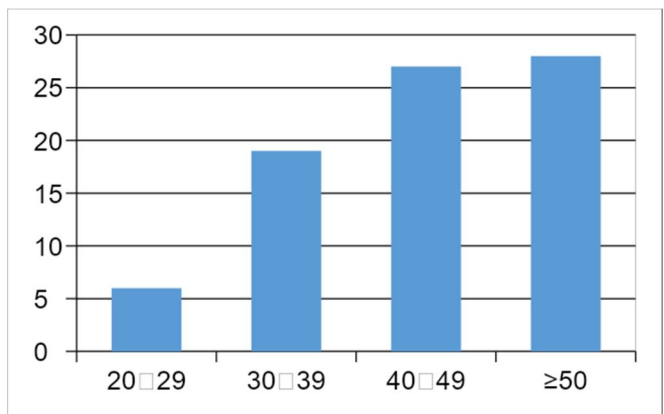
連絡会議に出席し、問題点の共有を図った。また、2019 年度医療連携セミナーにおいて「最近の HIV 診療の動向と課題」について講演を行い、医療従事者への情報提供を行った。

1 東葛地域の患者の年齢区分

1 柏市



2 松戸市



2 受診行動 (県内受診か、東京等の他地域受診か)

自治体	県内受診(2018年比)
千葉市	72.0%(↑)
船橋市	35.7%(↓)
市川市	31.2%(↑)
松戸市	36.3%(↑)
柏市	39.3%(↑)
浦安市	33.8%

東葛北部地域の HIV 感染症患者の年齢分布は 30 歳台と 40 歳台が拮抗し、千葉市とその周辺地域より若い傾向にあったものの、確実に高齢化することが予想された。多くの患者が東京都内の医療機関を受診し、千葉県内の医療機関を受診している患者は 30%-40%程度にとどまっている。病院感染防止対策加算を算定している病院のアンケート調査から、加算 1 病院はエイズ拠点病院との連携のもと、入院・外来ともに HIV 感染以外の疾患治療を受け入れることが可能であると考えられた。加算 2 病院は合併症に関する外来患者受け入れの可能性がある。

#### D. 考察

東葛北部地域は当院を含めて 3 病院が診療にあたり、それぞれの病院で患者数が増加傾向にあることが明らかになった。どの病院も患者の歯科診療、透析、将来の高齢者の施設入所において問題を抱えていることも判明した。外国人患者も数名ではあるが、徐々に増えており、今後通訳や保険診療継続の問題が浮き上がってくることも予想された。船橋市、市川市、松戸市、柏市の HIV 感染症診療は、東京依存型である。このような潜在的 HIV の感染症患者を過小評価し、地域の現状インフラを過大評価すると、HIV 感染症診療が後手に回るリスクがある。特に、船橋市と市川市にはエイズ拠点病院がない。このため、拠点病院を核とする地域連携の基盤が脆弱である。

#### E. 結論

東葛地区の HIV 患者の年齢分布、受診行動、病院での診療実績を明らかにした。高齢化と東京近郊で

ある、という土地柄から、緊急入院、透析、がん合併、要介護などの状況変化に対しての受け入れに懸念があり、地域連携にむけて課題が多い。東京依存型の受診行動を想定し、千葉県内の HIV 診療体制の構築が必要である。

#### F. 健康危険情報

本研究では介入研究ではないため特記すべき健康危険情報はありません。

#### G. 研究発表

##### 1 論文発表

Yanagihara K, Matsumoto T, Aoki N, Sato J, Wakamura T, Kiyota H, **Tsukada H** et al. Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the surveillance committee of Japanese Society of Chemotherapy, the Japanese Association for Infectious Disease, and the Japanese Society of clinical microbiology in 2014: General view of the pathogens' antibacterial susceptibility. *J Infect Chemother.* 2019;25:657-68.

Moro H, **Tsukada H**. Treatment and prevention of pneumonia in older adults. *Jpn. J. Chemother.* 2019;67:1-12. Apr;25(2):208-2

##### 2 学会発表 なし

3 その他 2019年10月10日 医療連携セミナー「最近の HIV 診療の動向と課題」の題名で塚田弘樹が発表

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

現時点では特許取得、実用新案登録の予定はありません。